

2025 年 9 月 18 日

2025 全国高齢者集会 挨拶

日本退職者連合 会 長 野田 那智子

みなさまこんにちは。私は 7 月に行われました日本退職者連合第 29 回定期総会で、会長に就任した野田那智子です。よろしくお願い致します。

2025 全国高齢者集会に全国各地から参加されました仲間の皆さまに感謝致します。

また、常日頃より全国各地で日本退職者連合の活動に取り組まれている皆さまに敬意を表します。

主催者を代表して一言ご挨拶させていただきます。

本日の全国高齢者集会には大変お忙しい中、ご来賓の方々にご臨席頂いております。

私の方からご紹介させていただきます。

連合本部より清水秀行事務局長、立憲民主党より野田佳彦代表、国民民主党より浅野哲青年局長、社会民主党よりラサール石井参議院議員、中央労福協より南部美智代事務局長、労金協会より木内崇文経営企画部副部長、国民共済 coop より大好博巳常務執行役員にご臨席頂きました。

全体の拍手でお礼を申し上げたいと思います。後ほど、連合本部、政党代表の皆さんから、それぞれの立場からのご挨拶を頂きますのでよろしくお願いします。

本集会で次の 3 点について述べさせて頂き、参加された皆さまと情勢の共有化を図りたいと思います。

1 点目は戦後 80 年平和についてです。

広島と長崎に原爆が投下されてから 80 年が経ちました。被爆者の願いとは裏腹に世界では核の脅威が横行しています。惨禍を絶対に繰り返さぬよう訴え続けることは、私たちの使命であり、節目の年に「核なき世界」への誓いを新たにしたいと思います。

世界 9 カ国に核弾頭は約 1 万 2300 発あると言われ、増加していると報道もされています。核兵器廃絶への歩みを主導することが、唯一の戦争被爆国・日本に期待される役割であり、日本にしかできない役割でもあります。私たちは毎年、核兵器禁止条約締約国会議へのオブザーバー参加を求めています。そして、連合と共に 5 年に 1 度開催される NPT 再検討会議にあわせて、核兵器廃絶と恒久平和の実現をめざし「核兵器廃絶 1000 万署名」の取り組みを進めていますので、署名へのご協力をよろしくお願いします。

私の故郷である三重県伊勢市朝熊山に金剛證寺があります。ここに昭和初期の詩人、竹内浩三のお墓があります。1945 年 4 月フィリピンで 23 歳の若さで戦死しました。詩碑に「戦死やあわれ 兵隊の死ぬるやあわれ」とおい他国でひょんと死ぬるやあわれ」と書かれています。彼は映画「東京物語」で有名な小津安二郎監督と映画をつくることを夢みていました。戦争は将来の夢と希望を失くします。

8 月 15 日の敗戦記念日が終わるのを待っていたかのように、熊本、静岡、宮崎、北海道など「敵基地攻撃能力」の具体的な配備計画が発表されました。台湾有事を口実に沖縄を再び戦場にはいけません。石垣島での基地設置と強化は短期間で進み、緑一色の中に石垣駐屯地が設置されています。宮古島や与那国島にミサイルが林立し、南西諸島から避難させる訓練は戦争に参加するつもりのようです。

平和は「願う」ものでなく、「つくる」ものです。安全保障に危機感を持つなら、外交努力をして近隣国との関係改善をめざし、軍事力だけに頼るのは止めてほしいと強く思います。

来年度の防衛予算（概算要求）は 8 兆 8 千億円で過去最高です。お金を生きている人のために使ってほしい。人を殺傷する武器を買うために使ってほしくありません。

トランプ大統領から関税に関して世界中が振り回されている中で、アメリカは日本から利益になるものはないと言いますが、武器など言い値で買わされています。

2 点目は私たちを取り巻く環境です。

第 27 回参議院選挙で、与党は昨秋の衆院選に続けて過半数を割り多党時代となりました。連合と退職者連合が推薦した候補者全員の当選にはなりませんでした。酷暑の中での会員全員の取り組みに、心より敬意を表します。

SNS や AI による選挙で多党時代となりました。

衆議院に続いて参議院でも与党が過半数を割ったということで、予算編成や法改正を伴う政策決定の過程では、野党との協議がこれまで以上に難航することが予想されます。

継続審議になっている選択的夫婦別姓導入については成立に向けて運動を進めていきます。今、自民党総裁選で、政治的空白が続いていますが、物価高対策、政治とカネの問題への対応は棚上げにされたままです。

私たちは、国民の希望に応える野党共闘を促進させて、不屈で筋を曲げない、健全な野党の旗をしっかりと立ててほしいと願っています。物価高で私たちの暮らしは厳しいものになっています。

日本の制度の特徴は所得再分配の効果が低いことです。負担でも給付でも富裕層が優遇されるような構造を転換することが求められます。

厚労省の調べで全国の 100 歳以上の高齢者は約 10 万人と発表されました。そのうち女性が 88% 約 8 万 8000 人、男性は約 1 万 2000 人となっています。高齢者の貧困率は 20%と若者よりも高く、貧困者の 4 割近くが高齢層です。さらに男性高齢者より女性高齢者の方が高いのです。生活苦は「自己責任」ではありません。

O E C D は、低所得層の生計を底上げしないと経済成長も伸びないと指摘しています。今回のコメ価格高騰で浮き彫りになったのは、政府が収穫量の見通しを明確に把握できず、価格調整機能を失っていたことです。コメの生産を立て直すには、複雑な流通過程を改革する必要があります。「令和のコメ騒動」と言われないよう農政の抜本的な改革を望みます。

また、今年のような猛暑は地球温暖化からの影響と言われます。軍事費に回す予算を温暖化対策費に振り替えるくらいの対策が必要です。

7 月にロシア・カムチャッカ半島付近で発生した大地震の影響で、太平洋沿岸の広い範囲に津波が到達しました。大津波を伴う南海トラフ巨大地震や人口密集地を襲う首都直下型地震は、いつ起きてもおかしくないと報道されています。普段から防災・減災の意識を高め、自分事として備えることが不可欠です。

最後に、朝が来ない日はないことを参加者のみなさまと共有したいと思います。

少子高齢化や物価高を背景に年金、医療・介護など社会保障制度の運営は厳しさを増しています。

高齢者に負担増を求める動きは医療保険にとどまらず、介護保険にも広がっています。ましてや介護保険は深刻な担い手不足で持続性が危ぶまれています。

高額療養費の負担増は結論先送りになりましたが、負担増や給付減の議論から逃げずに持続可能な改革をしっかりと示してほしいと政府に要望しています。

「今だけ 自分だけ」との空気をあおり、人と人との間に壁をつくれば、民主主義は足元から崩れます。長生きが悪のような風潮、高齢者にとって肩身が狭くなるような言論も浸透しています。世代間対立は避けて、みんなが生きやすい社会を創りあげていくことが大切です。

家族層が変わって、おひとり様の増加で大家族から核家族、単身世帯へと変化してきています。一人暮らしの「単独世帯」は 903 万 1 千世帯で過去最多を更新しています。介護サービスや生活支援サービスの需要が拡大していきます。

安心して暮らせる社会保障の充実に向けた政治の力量が問われてきます。

日本退職者連合は、将来に向けて大きなビジョンの立てられる経済政策、社会保障、ジェンダー平等の推進、女性が男性と等しく権利や発言を得ること、その先にあるのは「女性」が生きやすい社会になるのではなくて「誰も」が生きやすい社会になるのです。

歳を重ねても夢に年齢制限はありません。「やることがある」「やれることをつくる」のが健康に生きる秘訣です。

明日の朝が今日よりも希望の持てる朝になることをめざして活動していくことを申し上げ、主催者を代表しての挨拶とします。